

園より（11月 その2）

紅葉は太陽の光に照らされるとキラキラ輝いてきれい！

秋の澄んだ空のもと、ふじ乳児保育園の子どもたちも春からググッと成長して、歌に、工作に、ブロック遊びに、かけっこに、それぞれの得意なことをグイグイ伸ばして一人一人がまぶしくキラキラ輝いています。

ぱんだ組が中心になって行った「芋煮会」は「楽しい～♪」の音がたくさん聞けました。大根やニンジンなどの皮むきもしてもらい、かまどに入れて薪と炭でグツグツ煮込み、試食の際の「おいしい！」の声はどんなグルメリポーターにも負けなくらいおいしそうなお表情を見せてくれました。

その横ではたき火もして焼き芋づくり。たき火を囲んであったまると話しが弾んで身も心も暖まりました。何故たき火で暖まりながらお話をするとなんでこんなに落ち着いてお話しできるのかな？ささやかながらかけがえのない時間を過ごしているようで、子どもたちとともに楽しくうれしく思いました。

そういえば日頃、大人は子どもたちに「話しを聞きなさい」とつい言ってしまいがちですが逆に大人は子どもたちの話しをどれだけ聞いてあげているんだろう？と疑問に思いました。いつだって子どもたちは自分の話をしたがりです。大人から見れば「そんなの誰でも知っている」とか「独自のワールド話し」だったりして理解に苦しむときもありますかね…忙しい毎日を送っている大人からしたら「後にしてほしい」

「疲れる話」なのかもしれませんが時にはたき火にあたったときのような、ゆったり落ち着いた雰囲気の中で子どもたちの話しに耳を傾けてあげたいと思います。

特に男の子なんかは謎めいた不思議な言葉を並べて話す時がありますが、耳をしっ

かり傾けると戦隊ヒーローものの登場するキャラや技の名前とその効果、新幹線の名前ばかりか形式名称や行先までつぶやいたり、虫や動物の名前はもちろん生態まで知っていて、その子の興味あるものやそこで得た情報のとらえ方などが見え、「実はすごい知識を持っているじゃないか！」「実はすごい情報処理能力じゃないか！」なんてびっくりすることはよくあります。大人が知ってほしい情報と子どもが知りたい情報は違いますが、大人が理解してほしいことがあるのなら子どもの話も理解してあげないとコミュニケーションは一方通行になってしまうかもしれませんね。ユラユラ揺れる炎を見ながらいろんな会話が飛び交うまったりした雰囲気の中、大人が話を聞いてほしいなら子どもの話をまず聞かなければ…なんてことを思うのでした。

たき火でできた「焼き芋」はその場でみんな一緒においしくたべたら「ホクホク！」で甘く、いろんなコメントが聞かれました。中でも「6年間生きてきた中でいちばんおいしい芋だ！」とガッツポーズする子がいて周囲の笑いを誘っていました。

今月も子どもの話に耳を傾けてたのしくすごしましょう！



おいしさが伝わりますかねえ～♪ ⇒